

【児童への話】

5月も中旬に入り、今学期が始まって1か月と少しが経ちました。はやいですね。今は暦のうえでは「立夏」となり、もう夏に入っています。さわやかな新緑の時期から、だんだん汗ばむような暑さの日も出てきました。運動会の練習が本格的に始まります。汗拭きタオルや着替えなどをきちんと用意して、清潔を保つよう心がけてください。

さて、5月は日本の古い言い方で「皐月（さつき）」です。では、皐月って、どういう漢字を書くか、分かりますか？ 正解は、こんな漢字です。この漢字を書ける人は、大人でもあまりいないと思います。実は、この漢字の由来を知ると、字をすごく覚えやすいので、今日は特別に、「皐月の漢字の由来」を教えてください。よく聞いてください。

この「皐」の漢字、実は象形文字です。象形文字とは、物の形から生まれた字で、「山」とか「月」とか、具体的な物を模って（かたどって）できた字のことです。中～高学年の皆さんは分かりますね。では、この「皐」が模った、元のものは何だと思いませんか…？

正解は、四本足の動物、もっと詳しく言うと、「動物の骨」なんです。この絵を見てください。動物が死んで骨になり、頭が白く大きく、四本の足があり、背骨とかしっぽのようなものが残っていますね。この形がそのまま漢字になった、ということなんです。では、もとの「皐」の漢字をよく見てください。ほら、白い大きな頭、四本の足、背骨やしっぽのように見えるでしょう。そしてもう、この漢字を覚えられたと思います。このお話、お家の人に紹介してみてください。きっと驚きますよ。

「皐」の漢字は、動物の白い骨が光を受けるとキラキラすることから、白く輝くこと、そして水辺や沢などの水面がきらめき、ゆるやかに広がっている様子を意味するようになりました。この「皐月」は、新緑に囲まれ、豊かな自然や生き物が生き生きと成長していく様子を表す、ステキな言葉なんですね。落五の皆さんも、この5月、楽しく元気に伸び伸びと成長して行ってください。今日は、「皐月の漢字の由来」について、お話ししました。

【本講話について】

今日は、右の絵を見せながら、「皐」の漢字の由来についての講話を行いました。PC等の普及により、漢字を正しく書くスキルは、今後必ずしも重要とは言えないかもしれませんが、でも、社会生活を営む上で、その漢字や語句のもつ意味が正しく理解できていて、適切に用いることができているかを問われる場面は必ずあるものです。子どもたちが将来恥ずかしい状況になってしまうのは、避けてあげたいなと思います。

落五小では、教科等の学習や読書、伝え合う活動を通して、豊かな語彙を獲得するための教育活動を推進しています。自分の伝えたいことを、自分から、正しい言葉で伝えられる子どもを増やしていきます。そのために、まずは漢字や語そのもののもつ意味に関心を持ち、調べようとする意欲を高めることが大切です。ご家庭でもぜひ、言葉のもつ意味を考え、丁寧に話すことができる子になれるよう、お子さんとのステキな会話を心がけてみてください。

